

平成 23 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272200304		
法人名	株式会社 ユートピア あいのり		
事業所名	グループホームあいのり		
所在地	青森県平川市碇ヶ関西碇ヶ関山185		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階
訪問調査日	平成23年12月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あいのり温泉がある山の中のグループホームです。温泉があり温泉入浴はいつでもできます。また、温泉熱を利用した床暖房があり、震災時でも床暖房が止まることもなく利用者は常に暖かいホームで過ごすことができました。建物も平屋で強固であり、周囲の地形も国の災害対策により震災時には特に被害はありませんでした。食事は、職員が利用者に合わせた食事形態で職員手作りの料理だったり、行事がある時は豪華に隣にある温泉宿にいる腕の良い料理長の食事だったりとバラエティに富んでいます。そして、職員は長年勤務の職員が家族のように接し温泉のような温まる介護をしております。自然も豊かで、時々野生のカモシカや動物たちが顔を出したりします。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気の中、利用者と職員の良い関係が築かれている。食事や入浴、排泄等のサービスについても個々の状態に合わせて提供されており、理念そのものが実践されている。温泉が湧き出していることにより、24時間入浴が可能であり、また、冬期間は床暖房としても利用されているため、快適に生活することができる。看護師が勤務しており、24時間連絡が取れる体制となっているため、利用者、家族、職員ともに安心感がある。

立地的に中心街から離れていること、また、比較的重度の方を受け入れているため、苦労されている点も多いが、代表や管理者も含め、現状を改善しようと外部へ働きかけており、数少ない地元の事業所として、地域福祉増進のため努力されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	<input type="radio"/> 1. 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない	64	<input type="radio"/> 1. 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	<input type="radio"/> 1. 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拓がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	<input type="radio"/> 1. 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない	67	<input type="radio"/> 1. 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	<input type="radio"/> 1. 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングで事例を通して理念について話し合い、職員全員で共有を図り、地域の出来事・情報をも共有し地域の貢献について話合っている。	全職員がホームの理念を理解しており、家庭的な雰囲気の中で個々に配慮したサービスが提供できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム職員は地域の方が半数働いており、消防団・敬老会・清掃活動等に職員が積極的に参加しており、地域の人たちと日常的に交流をしている。	地域のイベントへの参加やボランティアの訪問等もあり、積極的に交流を図っている。また、地元の職員が多く、消防団に所属している職員もいる。ホームの代表が、地域で開催される講演で講師を行うなど、地域への貢献も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	碇ヶ関地域の方々、ホーム隣りにある旅館に来られるお客さんの方々のホーム見学、介護相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では、震災後は避難方法などを訓練し、結果を基に話し合ったりしてサービスの向上に意見・助言を参考にしている。	運営推進会議では、ホームの状況や活動報告を行っており、その都度参加者からの意見等を参考にし、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話で介護保険係りと頻回に連絡をとり、また、災害時を想定し碇ヶ関支所とも連絡を取り協議し、推進会議に市役所担当者に参加してもらい会議での内容・意見を参考にしている。	市職員とは密に連絡をとり、サービスを提供する上で問題となっていることなどがあれば、その都度相談し、解決を図っている。市と合同で地域住民に対して介護保険の勉強会を開催するなどの活動も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは身体拘束をしないことは職員に徹底しており、ミーティングの時には拘束をしないように話合っている。	身体拘束に当たる行為を職員は理解している。言葉による拘束もしないよう、常日頃から管理者が注意を促しており、利用者に対する声掛けにも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティングで具体的に事例を通して話し合っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に具体的な事例を通して制度について説明をしている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時、ホーム訪問時に相談説明を行っている。		
10 (6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何時でも、利用者が意見を言いやすい雰囲気をつくっている。	利用者や家族からの要望については、職員から働きかけて聞き取るよう努めており、できる限り応える努力をしている。	意見、要望等については、その都度対応されているが、記録が残っていない。全職員が把握し、今後同じことを繰り返さないためにも、記録に残すことが望まれる。
11 (7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族・利用者に苦情の申し立ての窓口、雰囲気をつくっている。	定例会議や日常のミーティング等では、職員から積極的に意見が出され、それらが業務に反映されている。ホームの代表も積極的に顔をだし、職員からの要望等の聞き取りを行い、働きやすい環境となるよう努めている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	代表が、時々の全員会議・面会時に職員の意見を聞き、評価等に反映させている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の外部研修に積極的に参加を促しており、研修に参加できる体制を整え、研修後は伝達報告し、職員全員で共有され資質向上に努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの行事活動に参加して交流をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前から、本人・家族・介護支援専門員・市町村・地域住民と面談・調査を行い、情報を収集しケアに活かしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族への相談窓口・職員への家族対応を徹底している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居する前から、本人・家族・介護支援専門員・市町村・地域住民と面談・調査を行い、情報を収集しケアに活かしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの日常生活で、食事・入浴など家庭で家族と一緒に生活を共にしている雰囲気の中で信頼関係が築けるように努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはホームでの身体・生活状態を面会時、家庭訪問時、電話等で連絡し同意確認、計画・対応の相談を行っている。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのあった関係の人たちには、訪問・電話で関係を維持し、ホームの利用者・住民には新しい馴染みの関係を築けるようにしている。共に、行事などに参加してもらっている。	利用者からの希望に応じて、家族へ面会や外出を依頼したり、電話や手紙を送る際に支援をしている。また、お墓参り等の外出も支援している。ホームに来る面会者も多く、なじみの関係が保たれている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームのホールで過ごせるように職員が入りアクティビティーの時間を多くし、馴染みの関係がつくれるように努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、家族の方がホーム来られたりして、近況状況を聞き、場合によっては相談・支援を行っている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表情や会話から、本人の思いを汲み取り、笑顔でいる時間を少しでも多く持てるように工夫し職員間でも共有している。	思いをうまく伝えられない利用者に対しても、ゆっくりと時間をかけて関わることで、表情やしぐさ等から本人の意向を把握するように努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、介護支援専門員、サービス事業所、知人、友人等から情報を得てホームでの生活に活かせるようにしている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の心身状態の把握に本人のバイタル他観察を継続し、本人のできることの多くを見つけ支援している。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング、カンファレンスを行い情報を収集し、それを職員間で共有し、本人・家族の意向をも取り入れ介護計画に反映し、評価をみんなで話し合うようにしている。	計画作成後も職員や家族からの意見を取り入れて、利用者の状況にあったサービスが、その都度検討されている。	日々実践されていることが記録に残されていないため、評価を正しく行えないことも懸念される。記録の様式を見直すなどして、少ない負担で必要な情報が記録できるよう改善を期待したい。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常のケアの中での気づきは介護記録に記録され、毎日のミーティング時に紹介され職員間で共有される。日常のケアに活かされるように徹底し、介護計画を修正しケアを行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームに隣接している温泉旅館で、行事会を行い食事・レクなどを趣向を変えて行っている。また、送迎バスを利用しドライブ、遠の方々と交流などをしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会長、民生委員、駐在、消防団、支所、中学・小学生ボランティア、地域住民の情報を交換しホームでの運営に役立っている。		
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望を確認し主治医と相談のうえ介護計画に基づき協力医療機関等での受診を支援している。その状況は家族に報告し、情報を共有している。	希望により入居前のかかりつけ医を継続している方もいる。職員が受診対応をしており、受診後は家族へ状況報告している。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中とらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任看護師が近くに在住し、いつでも援助が可能である。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の医師・看護師・ソーシャルワーカー・事務と信頼関係があり、随時情報交換して経過を把握し連携をしながら支援を行っている。		
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所できることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいく	重度化・終末期の利用者ケアについては、医療機関・家族と協議のうえ家族意向を踏まえて介護計画を作成し同意を得てケアを行っている。	看護師が2名勤務しており、24時間連絡を取れる体制となっている。重度の方も入居しているが、家族の意思を確認してできる範囲で受け入れをしている。また、管理者が中心となり、次の行き先となる施設、病院と掛け合う等の支援も行っている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	職員は消防の救命講習を受けており、救急時の対応もマニュアル化され掲示している。また、その他に常勤看護師・医療機関からも医療面で指導を受けている。		
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を数回定期的に行い、年に1回は消防の立会いで行っている。また、運営推進会議で、消防・県・市役所・警察・附近施設等で情報交換し連携を図っている。	火災を想定した避難訓練を実施しており、役割分担等がされている。災害に備え、日ごろから県、市、消防、警察等と密に連絡を取り合っており、また隣にある宿泊施設の備蓄や機材、人員の確保等、協力が得られる体制となっている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14) ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は「さん」付けにて呼び、本人の訴えに傾聴するように職員が接している。	職員は日ごろから声掛け等に注意を払い、利用者の表情やしぐさから思いの把握に努めて、一人ひとりがその人らしく生活できるよう接している。	居室やトイレの扉の開放、居室のネームプレート等については、必要性を再検討し、環境面でも個人のプライバシーを尊重したものとなるよう改善を期待したい。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホームでの日常生活には制限を加えずに自己のライフスタイルで生活してもらっている、自分の思いを自由に表現できる支援をしている。自らの思いを伝えることが難しい利用者には職員が思いを汲み取れるように支援している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活を尊重し、利用者を急がせないようにとじっくり待つようにして職員が対応している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみなど自己において難しい方には、職員が手伝い気をつけています。また、理容ボランティアに2ヶ月に1回ホームに来てもらっている。家族にも協力してもらい服などを入れ替えてもらっている。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の嗜好・嚥下状態に合わせて個々に調理を行って提供している。当ホームでは、食事はホーム職員の手作りで行っている。また、行事会では隣りの温泉旅館より行事食を提供してもらっている。	食事をして健康になるという代表の思いの基、職員の手作りの食事を提供している。利用者は、下ごしらえや、盛付け等の準備、後片づけを手伝って一緒に作業を行っている。外食や行事食等、日ごろと違うものを食べる機会もあり、食事を楽しめよう努めている。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は個々に食事毎に記録をしておりそれに合わせ補給・補食を提供している。また、バランスガイドを使用し、栄養のバランスを取るようにしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後は出来る方には自力にて行えるように支援し、介助が必要な方に職員が付き添い行っている。口腔内ケアを行い肺炎予防し、義歯の洗浄も行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間排泄チェック表を使用し、個々の利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声掛けを行っている。	排泄チェック表を設け、それぞれの状態を把握し、事故や怪我がないよう配慮したうえで、一人ひとりにあった排泄方法がとられている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	24時間排泄チェック表を使用し、個々の利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声掛けを行う。協力病院の医師・看護師と相談し適時下剤の処方もしてもらい排便管理し、牛乳・リンゴ摄取し適度の運動も行っている。		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	ホームのお風呂は温泉を使用しており、何時でも入浴が可能であり、入浴だけではなく清潔も含め利用者の清潔保持、アクティビティーになっている。	温泉が湧き出ており、いつでも入浴できる環境にある。特別な機器はないが、重度の方でも入れるよう職員が2人で対応するなど、安全にも配慮されている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣を大切にして、休憩・昼寝・入眠時間を個々に合わせている。眠れない時は、医師と相談して眠剤を使用することもあるが、ホットミルクの提供・付き添い等で安心してもらい入眠できるように工夫している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者には薬の作用をその都度説明し、安心して服用してもらっている。利用者の状態の変化時は医師に相談し、服用時は薬剤師にも相談している。		
48	○役割・楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸・塗り絵・習字・食事盛り付け・合唱など色々と集団、個別に合わせホームでは行っている。		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を話してもらい、外出しドライブ・買物・外食など趣向を凝らし利用者には楽しんでもらっている。また、家族にもお願ひすることもある。	外出の希望については、できる範囲でその都度対応している。隣接する足湯に行くなど、日常的な散歩等も行っている。徒歩圏内には買い物等できる施設がないため、近隣の道の駅やショッピングセンター等へ車で外出し、買い物や食事を楽しんでいる。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をもっていないと落ち着かない利用者もいるので小額は所持してもらっている利用者もいる。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けて欲しいとの依頼があれば、職員が代行し会話は本人同士で話してもらっている。手紙等は職員が預かりポストに投函している。		
52 (19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しはカーテンにて調節し、照明も明るさを調節している。ホールには季節の飾り物を置き季節感を感じもらっている。また、馴染みの多いものを利用者の居室においている。	共用スペースは、ホールを見渡すことのできるキッチンがあり、利用者はソファーを中心にゆったりと過ごすことができる。季節の飾り等もあり、家庭的な雰囲気となっている。温泉熱を利用した床暖房があり、冬でも暖かく過ごすことができる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思に過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファーを置くスペースが確保されており利用者が一緒にテレビ観賞をしたり、体操を行ったりしている。		
54 (20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の趣味に合わせ配置し、本人の馴染みの物が置けるようにしている。	居室は安全性に配慮したうえで、入居前に使用していたものや家族の位牌、写真、利用者自身が作った作品を飾っており、居心地よく過ごせる空間となっている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内では、手すりを設置、玄関にはベンチ、ベッドは身体機能に合わせ介護ベッド、セミダブルベッドを設置している。居室に分りやすいように目印をしている。		